



陶韻クラブ

第19号

明けましておめでとございます。



穏やかな新年をお迎えのこ
ととお慶び申し上げます。
昨年十二月八日には地震が
発生し、八戸市では震度六
強を観測するなど大きな被
害があり、現在も復興に向
けた取り組みが続いていま
す。被災された皆様には心
よりお見舞い申し上げます。
自然の持つ力を前に、日頃
からの備えや支え合いの大
切さを改めて感じさせられ
ます。
さて、昨年の陶韻クラブの
活動は、ジャパンデーや新
入会員歓迎会をはじめ、列

会を通じた作品づくりと交
流が着実に続いた一年でし
た。また、創立四十五周年
を迎え、十一月には祝賀会
を無事開催することができ
ました。

節目の年を終え、今年はず
の一步を踏み出す年となり
ます。無理のない形で活動
を続け、土に触れ、作品を
形にする時間を大切にしま
がら、互いに学び合える場
を守っていききたいと思いま
す。

新しい一年が、皆様にとっ
て健やかで実り多い陶芸の
年となりますよう願ってお
ります。本年もどうぞよろ
しくお願いいたします。

窯元紹介 唐津焼

焼き物の歴史や知識を不定
期に紹介してきましたが、
今回は私が好きな「唐津
焼」を取り上げます。
唐津焼は、佐賀県唐津市を
中心とした地域で焼かれる
陶器です。桃山時代に始
まったとされ、豊臣秀吉の
朝鮮出兵の際に連れ帰られ
た、陶工の技術が取り入れ
られ、発展しました。

唐津焼の魅力は、飾り気な
ない素朴さと、使うほどに
味わいが深まる実用性にあ
ります。代表的な作風のひ
とつが「絵唐津」です。鉄
を含み顔料で草花や文様を
描き、透明釉を掛けて焼き
上げたもので、唐津焼を象
徴する表現として知られて
います。



また、「粉引唐津」は、器
の表面に白化粧を施して焼
いたもので、柔らかな白い
表情が特徴です。温かみの
ある風合いは、料理を引き
立て、日常の器として親し
まれていきます。



さらに、「朝鮮唐津」は、
黒飴色の釉薬と乳白色の釉
薬を掛け分けて焼き上げた
もので、二色の釉が生み出
す大胆な対比が魅力です。
釉薬の流れや溜まりによっ
て一つひとつ異なる表情を
見せ、唐津焼の技法の豊か
さを感じさせます。



唐津焼は、派手さはありません
せんが、土と炎が生み出す
自然な美しさを備えた焼き
物です。日々の暮らしの中
で使い続けることで、その
良さを実感できる、まさに
「用の美」を体現する器と
言えるでしょう。

会則より

作陶時の大切な注意点 第1弾 粘土について

日々の作陶で使った粘土
や削りくずは、クラブの
大切な共有資源です。会
則では、削りくずは決め
られた方法で分別するこ
とが定められています。
そこで今後は、粘土の再
生を定期的に行う取り組
みを再開します。

会員動向

今年度新入会員の佐藤
麻衣子さんが家族の事情
により退会されました。

1月〜2月の休会会員
生出恵子さん、天摩隆志
さん、小西コヨさん、
加藤早苗さん

今後の予定

1月	16日(金)	制作
2月	23日(金)	制作
3月	30日(金)	粘土再生
6月	6日(金)	制作
10月	13日(金)	制作
12月	20日(金)	制作
2月	27日(金)	制作

まずは1月30日(金)
に、全員で粘土の再生作
業を行う予定です。あわ
せて、道具係の業務(道
具の整理や確認)も行い
ます。
粘土をきちんと再生し、
良い状態で次につなげる
ことは、作陶の質を高め
るだけでなく、気持ちよ
く活動を続けることにも
つながります。今後は2
か月に1回程度のペース
で実施していく予定です
ので、ご協力をお願いし
ます。